

第6章 実施手段

- 実施手段とは、どんな材料で、どんな工法で、何を作るのかという、いわば「作り方」です。
- 環境公共の実施を契機に、「地域力の再生」、「強固な農・林・水の連携」、「環境への『配慮』から『保全・再生』へ」を図るためには、これまでの公共事業における実施手段を見直す必要があります。
- また、農林水産業者はもとより地域の多様な主体が参加し、持続可能で自主自立の青森県づくりを進めていくため、地場の資源、技術、人財を最大限に活用していくことが基本です。

1 「地域力の再生」を図る実施手段

■ 「地場の資源」の活用

たとえば、農業水路は、農業用水を安定的に供給するとともに、施設そのものが地域の文化的遺産でもありました。こうした地域資源は、人々の安らぎと憩いの場として、人と水との深く関わり合う場でもあります。高度成長時代に作られた施設は、経済性・効率性が求められ、没个性的で特徴がないとの批判も多いため、民間企業が提案する技術を積極的に活用しながら、親水機能や景観、伝統文化など地域資源の有効活用に努めます。

■ 「地場の技術」の活用

農林水産業に係る伝統的な技術は、それぞれの地域の特性や特徴に合わせ、独自に発達してきました。また、伝統技術に共通する点は、使用する材料が地域で入手しやすい自然素材であること、地域の環境を守り育てる知恵と工夫がなされていることです。このため、地域技術を積極的に学び受け継いでいくことが使命と考えます。

■ 「地場の人財」の活用

できあがった施設の適切な利活用と維持管理を継続していくためには、多様な主体の合意形成の下で、自らが行えることは自らが行う直営施工を導入するなど役割分担をしながら事業を進めていくことが有効と考えます。

解説

「地場の資源」

たとえば、農業水路は、水田へ用水を供給する機能のほか、地域の人々の生活や交流の場、子供たちの遊び場などの親水機能も有し、地域の水路として地域の人々に活用され守られてきました。また、地域の人々がそこで暮らすことにより、地域の伝統的な風習や文化が継承され、農林水産業が継続的に営まれることにより、豊かな景観が保全されてきました。環境公共では、こうした親水機能の再生・復活、伝統文化の継承、豊かな景観の保全など、地域資源を有効に活用することにより地域力の再生を図ります。

「地場の技術」

県内には、粗朶柵による水路の護岸や丸太を組み立てた木工沈床による水の流れの制御など、地域で伝承されてきた技術があります。また、地域には、環境保全に取り組むNPOや民間企業が持つ技術があります。環境公共では、古くから地域で伝承されてきた技術や地域で活動するNPOの力の活用、民間企業からのVE⁶による技術提案の積極的導入などにより地域力の再生を図ります。

「地場の人財」

かつて、皆のために必要なものを皆でつくることによって、地域の郷の形を整える努力が行われてきました。環境公共では、多様な主体の合意の下で役割分担をしながら、自らが行えることは自らが行う直営施工を積極的に導入し、地域力の再生を図ります。

また、総合評価落札方式⁷による企業の地域づくりへの活動を評価する仕組みを検討し、企業の参加による地域力の再生を図ります。



⁶ 「VE (Value Engineering)」とは:目的物の機能を低下させずコストを縮減する技術、同等のコストで機能を向上させるための技術です。

⁷ 「総合評価落札方式」とは:価格以外に多様な要素も考慮して、総合的に評価値が高い者と契約する入札方法です。「公共工事の品質確保の促進に関する法律(平成17年4月1日施行)により導入が決定されました。

2 「強固な農・林・水の連携」を図る実施手段

■ 「地場の資源」の活用

施設の整備や維持管理における発生物の抑制、リサイクル、省資源を図るため、他の分野との連携により、間伐材、ホタテ貝殻、家畜排せつ物などの未利用資源を積極的に活用します。

■ 「地場の技術」の活用

農業分野の持つ水質浄化技術や林業分野の持つ間伐材利用技術などそれぞれの得意技術を他の分野に転用していくほか、有用な技術については今後とも地場の技術として継承していきます。また、自然環境に与える負荷を極力抑えるため、農道と林道など機能が共用できる事業における連携を強めます。

■ 「地場の人財」の活用

豊かな森は、雨や雪解け水を土壌に一旦蓄え、森の栄養分を含んだ水は海の生態系を支えるプランクトンの発生や藻場の生育につながります。この山・川・海の保全・再生につながる活動については、農林漁業者などの人的な連携を積極的に図ります。

解説

「地場の資源」

林業分野で産出される間伐材を利用した水路整備や水産分野から産出されるホタテ貝殻を用いた水質浄化など、地域から産出される資源を有効活用することが、持続可能で循環型の農林水産業の実現につながります。環境公共では、地域未利用資源の更なる活用を進めるため、強固な農・林・水の連携を図ります。

「地場の技術」

農業分野の持つ水質浄化技術や林業分野の持つ木工加工技術など、各分野における得意技術があります。また、農道と林道など機能の共用を図ることによって、自然環境に与える負荷を極力抑えることも可能となります。環境公共では、分野間の技術転用・伝達や、施設の持つ機能の共用を積極的に進めるため、強固な農・林・水の連携を図ります。

「地場の人財」

手入れされた森林は、水源として下流の農地に水を供給し、また、栄養分を含んだ水は海の生態系を支えるプランクトンの発生を促進します。環境公共では、漁業者による植林や間伐といった森づくり、農業者による海岸の清掃など、人的な連携を通じた強固な農・林・水の連携を強化します。

3 「環境への配慮から保全・再生へ」を図る実施手段

■ 「地場の資源」の活用

地域個体群への遺伝子攪乱に十分配慮するため、地域固有種などを最優先して利用します。また、地域の気候、風土の下で育成された木材などの自然素材を巧みに利用し工夫していくことは、地域本来の生態系や景観などを形成するほか、そこに根づいた文化の継承にもつながります。

■ 「地場の技術」の活用

多様な動植物の生息・生育のベースとなる所は、里地里山、水田、水路などの水域のほか、農村地域に点在する緑地も重要な役割を果たしています。農山漁村の生態系ネットワークを図る観点から、施工位置、使用する材料、工法などを総合的に検討した上で、事業に反映させていきます。

■ 「地場の人財」の活用

地域の人々などが、継続的な動植物などの生き物調査や、これに基づく検証などを行うことにより、環境の保全・再生を図ります。

解説

「地場の資源」

外来種は、地域個体群への遺伝子攪乱や生態系の破壊などを引き起こす危険性があります。また、地域の気候、風土の下で育成された木材などの自然素材（間伐材、土、石など）は、何よりも地域の安らぎの景観となるほか、そこに根づいた文化の継承にもつながります。環境公共では、ヒバなどの郷土樹種による植林やヨモギ、メドハギといった在来種による法面保護など地域固有種などを利用すること、地場の木材、土、石などの自然素材を優先利用することなどを通じて、自然環境の保全・再生を図ります。

「地場の技術」

ドジョウの階段やメダカ水路による生態系ネットワークの構築、藻場の再生、適切な間伐や複層林化などによる生物多様性の回復や、地域用水や景観といった地域の持つ多面的機能の保全・回復を図ることで自然環境の保全・再生が図られていきます。環境公共では生態系ネットワークの構築、多面的機能の保全・回復に資する地域の技術を総合的に検討し、環境の保全・再生を図ります。

「地場の人財」

地域の魚類や鳥類などの生き物調査を地域の人々が継続的に行うことなどを通じて、環境の保全・再生が図られていきます。環境公共では、環境の保全・再生の検証を地域の人々が、自分たちの手により行うことが重要と考えています。



表6-1 実施手段

方向性 手段	地域力の再生 (新たな「結び」)	強固な農・林・水 の連携	環境への配慮から 保全・再生へ
地場の 資源 の活用	<ul style="list-style-type: none"> ●地域資源の有効活用 (親水機能の復活、景観、 伝統文化の継承など) 	<ul style="list-style-type: none"> ●未利用資源の活用 (間伐材、ホタテ貝殻、 家畜排せつ物など) 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域固有種などの利用 (郷土樹種、在来種など) ●自然素材の利用 (木材、土、石など)
地場の 技術 の活用	<ul style="list-style-type: none"> ●地域技術の活用(復活) (粗朶柵、木工沈床など) ●民間技術の活用 (NPO活動、企業提案など) 	<ul style="list-style-type: none"> ●技術連携 (得意技術の転用・伝達など) ●機能連携 (農道と林道の共用など) 	<ul style="list-style-type: none"> ●生物多様性の回復 (間伐、生態系ネットワーク の構築、藻場再生など) ●多面的機能の発揮 (地域用水、景観保全など)
地場の 人材 の活用	<ul style="list-style-type: none"> ●自分たちでできることは 自分たちの手で (直営施工など) 	<ul style="list-style-type: none"> ●人的連携 (農業者や漁業者による 森づくりなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分たちでできることは 自分たちの手で (生き物調査・検証など)

